

2024年度保育所及び認定こども園における自己評価

本年度の本園の保育・教育全般を総合的に評価し、次年度の保育・教育に活かせる方向で記入して下さい。

・ A B C D の4段階評価です。

A : たいへんよい
 B : よい
 C : 一部検討を要する
 D : 改善を要する

保育所・こども園名【 和歌山認定こども園 】

自己評価の観点	前年度の評価	本年度の評価
1. 園の保育理念・保育方針・保育目標の理解について		
① 会の保育理念を十分に理解し、日々の保育実践に活かしている	A	A
② 園の保育方針、保育目標を理解し、保育を実践している	A	A
評価の根拠 ・保育理念や方針は理解し保育に活かそうとしている。		
2. 保育について		
① 一人ひとりの子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている	A	A
② 年齢別・クラス目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定している	A	A
③ 評価、資料（諸記録）を集積している	B	B
④ 日々の保育実践について振り返りを行い、計画に生かし、子どもの育ちに反映させている	B	B
⑤ 園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地よく過ごせるよう配慮している	A	A
⑥ 気候や子どもの活動にあわせ、温度・湿度・換気、照度など配慮している	A	A
⑦ 季節の草花などを飾るなど、保育の中で子どもが季節感を感じるように配慮を行っている	B	B
⑧ 子どもの意欲を高めるような遊びの準備や配慮ができています	B	B
⑨ それぞれの子どもに関する必要な情報を共有している	B	B
⑩ 保育についての話し合いをよくしている	C	B
⑪ 保育士自身が楽しんで保育をしている	B	B
⑫ それぞれの役割を把握し、適切な動きができています	B	B
評価の根拠 ・季節の草花を保育に取り入れ、実際に子どもが植えたり育てるなどの活動もできた。 ・保育についての話し合いが増えてきているが、他クラスの保育士とも話し合い（語り合い）が増えるようにできるよう工夫していきたい。 ・楽しんでいる保育士が増えてきていると感じる。		
3. 健康管理について		
① 日々の園児の健康状態を観察し、一人一人の体調に合わせた保育を心がけている	A	A
② 玩具、遊具等については、常に衛生的に保持している	A	A
③ 乳幼児突然死症候群（SIDS）や感染症等の予防の対策やマニュアルが用意されている	A	A
評価の根拠 ・玩具や遊具の消毒を適切に行い衛生的に保つことができた。SIDSや感染症のマニュアルがあり職員に周知されている。		
4. 行事について		
① 行事の種類や実施回数は適切である	B	A
② 行事のねらいを計画や実施に十分生かしている	A	A
評価の根拠 ・行事が以前のように行うことができ、保護者の参加についてもほぼコロナ前の状態で参加してもらえた。 ・行事の内容についても行事のための活動ではなく、日々の取り組みを発表することができた。		
5. 食育について		
① 食育を通して子どもたちが楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫している	B	B
② 旬のものや季節感のある食材を用意し、食文化を伝える工夫をしている	B	B
③ 調理担当者と子どものコミュニケーションが図られるようにしている	C	B
評価の根拠 ・梅ジュース作りやクッキングなどを行い、食べることへの興味や意欲に繋がる活動ができた。 ・食文化や旬の食材などを知る機会が少ないと思うので、保育士と調理担当者が連携し、機会を作っていきたい。 また、調理担当者と子どものコミュニケーションが増えるよう取り組みを考えたい。		
6. 運営について		
① 園長や主任・職員の役割分担と責任が明確にされ、園児や保護者への迅速な対応ができる体制がある。	B	B
② 各種会議を適切かつ効率的に進めている	C	B
③ 打合せ回数、時間、内容は適切である	B	B
評価の根拠 ・効率よく話し合いが進められるようあらかじめ議題を決めるなど工夫して、以前より時間内に終わるようになってきた。また、会議ではない隙間時間にも話せるようになってきた。 ・乳児、幼児（会議）にこだわらずメンバーを入れ替えながら話し合い、他のクラス保育について知る機会にしていきたい。		

自己評価の観点		前年度 の評価	本年度 の評価
7. 保健・安全指導について			
① 年齢別・クラス経営に生かされるような具体的な保健対策を講じている		B	B
② 避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施している		A	A
③ 事故や災害に適応できるマニュアルをすぐに見ることができるようになっている		A	A
④ 廊下に落ちているものを拾ったり、トイレのスリッパを揃えたり意識している		A	A
⑤ 室内の衛生、クラス廻りの清掃に心がけ気持ち良い環境に心がけている		B	B
評価の根拠 ・マニュアルは整備されているが、見直し内容が共通理解できているか再確認していきたい。・室内清掃は分担を決め一人一人が意識することができたが、幼児クラスはクラスによりばらつきがある為、みんなで声を掛け合って意識していきたい。			
8. 研修について			
① 部内・部外研修への参加態勢の充実を図っている		A	A
② 研修報告を園内で実施している		B	B
評価の根拠 ・研修報告は復命書を作成しているが、復命者だけで記憶に残らない為、出来るだけ会議でも報告するようにしたい。			
9. 情報について			
① 園児の個人記録は個人情報保護法に基づいて管理・保管している		A	A
② 園内で知り得た事柄について守秘義務を徹底している		A	A
③ 各表簿は、適切な時間・方法で作成・処理している		A	A
評価の根拠 書類の管理や情報など個人情報にかかわる内容はしっかり管理しているが、プライバシー保護についてはヒヤリハットの側面からも繰り返し伝え、職員全員が意識していく必要がある。			
10. 設備について			
① 施設内外・設備の安全点検を計画的に行っている		A	A
② 掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用している		B	B
評価の根拠 ・年3回の施設点検や毎日安全点検を行っている。 ・掲示板は感染症について、ドキュメンテーション、お知らせなどに分け掲示しているが、掲示物が多くなるとわかりにくいので工夫が必要である。			
11. 保護者支援について			
① 子どもの送迎時に子どもの様子を伝えあうようにしている		A	A
② クラス懇談や個別懇談を行っている		A	A
③ 入園説明会やクラスごとの懇談会などでは保育内容や目的をわかりやすく説明し、情報提供を行っている		A	A
④ 保育参観等の機会を設け、保護者に保育を理解してもらう工夫をしている		B	A
評価の根拠 ・保育参観で子どもの様子や保育活動を見てもらい保育の理解に繋がる機会を持つことができた。 ・保育について懇談やドキュメンテーションでも保護者に発信しているが、わかりやすくしていく必要がある			
12. 開かれた保育所づくりについて			
① 園庭や保育室等を、地域の子育て親子等に解放している		A	A
② 職員による育児に係る「子育て相談」は充実している		B	B
③ 医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供している		A	A
④ 中高生の職場体験や実習生の受入を体制について、その意義や方針を全職員が理解している		B	B
⑤ 来客や地域の方に明るく挨拶をしている		A	A
評価の根拠 ・職場体験、実習生の受け入れを行った。 ・地域の子育て親子に保育室や園庭を開放し継続して参加してもらえた。また、園行事に参加できる機会も設けることができた。			
13. 情報発信について			
① えんだより、すこやかねと等で、情報発信に努めている		B	B
② 行事や子育て支援等を、地域や小学校等に対して周知している		B	B
評価の根拠 ・保護者には園だよりやドキュメンテーションなどで情報発信を行っているが、小学校に対しては発信できていないので、今後発信していきたい。			
14. 人権擁護について			
① 園児一人ひとりの人格を尊重し、適切な言葉がけや関わりをしている		A	A
② 園児の家庭環境や国籍、性別等の多様性を認識し、差別のない関わりをしている		A	A
② 園児の家庭環境や国籍、性別等の多様性を認識し、差別のない関わりをしている			A
評価の根拠 ・人権についての研修や、セルフチャックを通して、自分自身の保育を見直し改める機会を設けている。 ・成育歴や家庭環境が一人一人異なるが、それぞれに応じた関わりを心掛けている。			
15. 総括			
年間をとおしての振り返りと、子どもの育ちをより豊かなものにするための保育の実現に向けて、今後力を入れて取り組みたい事柄や課題等をお書きください。			
<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の課題に対する自己評価及び前年度よりも改善・充実したと考える点 ・すべての行事が以前のように実施することができ、保護者にも参加していただけた。行事の内容については行事のための活動ではなく、日々の取り組みを発表することができた。 ・往還型研修の取り組みから、話し合うことで、保育を振り返り、気づきに繋がった。 ・調理担当者がクッキングに参加したり、食事の様子を見に来る機会が増え、コミュニケーションが図られた。 ・会議の進め方について皆が意識するようになり効率よく進めることができてきている。 ・地域の子育て親子に保育室や園庭を開放することに加え、行事に参加出来る機会も作れた。継続して利用してもらうことで悩みや相談に対応することができた。 ・課題だと考えられる点や次年度の計画に反映させたい点 ・往還型研修での経験をその時だけにせず、継続していく。 ・保育について話し合っているが、クラス内のみの話し合いで終わってしまっている。乳児、幼児関係なく話し合いの場を設ける等、他クラスの保育士とも話し合い（語り合い）ができる場を設けていきたい。 ・食文化や旬の食材など伝える機会が少ないので、保育士と調理担当者が連携し、機会を作りたい。 ・小学校との連携は今後も引き続き小学校訪問等、交流を実施しながら、架け橋期の計画についても小学校とすすめていきたい。 			